

とぴあ

グループ伝言板

伊藤敬太さんが優秀論文賞に
表彰されました!!

医療情報管理室の伊藤敬太さん(写真左)が、2023年10月15日の第64回全日本病院学会(広島)にて発表した内容の論文が優秀論文賞に選出され、清水寺(京都)で表彰されました。また、全日本病院協会雑誌に掲載されました。



伊藤敬太さんのコメント



私は昨年「RPAで行う医療DX 当院での導入手法について」という演題で学会発表を行いました。RPAとはパソコン業務を自動化するためのツールです。自動化により職員が日々パソコンに向かう時間を削減させることができ、患者さんや利用者さんと顔を合わせる時間を増やすことができます。私が2022年7月に入社して以来どのようにRPAの導入に取り組んできたか、そしてどのような成果が挙げているのかをポスター形式で発表しました。発表内容が評価されて論文を寄稿することになり、その論文が優秀論文賞という素晴らしい賞に選ばれました。今回の受賞を励みに、今後も患者さんや利用者さんのために、当グループの職員が快適に働ける環境を作れるように取り組んでいきます。

全日本病院協会雑誌は、病院経営に関する原著論文、研究報告・症例報告・実践報告で、他誌に未発表のものが掲載されます。



患者さんとお話することで、
副作用から守るとともに、
薬の効果を最大限に活かしたい。

薬には、同じような効果を見込める様々な種類が存在します。私たちは医師が患者さんに最適な薬を処方するのを支えますが、その際に最も大切にしているのが患者さんのことです。日々、患者さんと接している看護師や、薬剤師自身が患者さんとお話することで状態を把握し、医師の診察や処方がより適正になるようサポートしています。また、患者さんが処方された薬を飲まなかったり、体調が改善されたからとご自身の判断で飲むことを止めたりする場合があります。なぜ飲む必要があるのかを説明し、納得し

た上で正しく服用してもらうようにするのも私たちの役割です。入院患者さんの場合は、ベッドサイドで処方された薬についてご説明し、それを飲まれた後の体調を確認するため、何度も患者さんのもとに伺うようにしています。薬剤師は薬のスペシャリストとして、製薬会社や学会、論文、勉強会などを通して、発売された薬や開発中の薬についてその効果や注意点などを理解し、医師や看護師に伝えることを日ごろから行っています。患者さんやご家族に対しては、わかりやすい説明が大切だと考えます。薬は体に作用する効果があるからこそ、一方で小さくとも副作用があるものです。薬そのもののご説明はもちろんですが、副作用として注意すべき点をお伝えし、何かあれば気軽に相談できる関係をつくることも、患者さんを守ることに繋がると考えています。

Staff Voice

富田浜病院 薬剤部
薬剤師
金子 真弓



部署
紹介



とみだ はま びょう いん やく ざい ぶ
富田浜病院 薬剤部

効果や副作用だけでなく、「薬」を入口として、患者さんと継続して接していくことを心がけています。

「薬」あるところに薬剤師あり。富田浜病院のみならず、介護サービスを受けている方たちにも「薬」を通じて関わっています。「薬」の効果や副作用はもちろんですが、それだけでなく、「薬」を入口として、その「薬」が本当に必要なか、逆に不足していないか、といった視点は薬剤師なら

では。今ある「薬」だけでなく、近い将来、治療で使用されるようになる「新しい薬」の情報など、つねに新しい知識を取り入れ、安全で有効な治療が継続されることに貢献していきます。



患者さん、ご家族の皆さんへ

治療を進める中で薬がなかなか効かず、痛みで辛い思いをする患者さんや、副作用が出て本当は必要な薬なのに使えないという不安を抱える患者さんいらっしゃいます。そのような時、他に代わりになる薬がないか、少しでも副作用を緩和できる方法がないかを考え続け、患者さんの苦しみや悲しみに寄り添いながら、薬剤師として何が出来るかをあきらめずに模索しています。あるリウマチの患者さんは、長年治療を続けている中で、これまでできていたことができなくなるなど、様々な苦痛や不安を抱えていました。新しい薬が開発され、試してみたところ非常に効果が現れ、顔いっぱい喜びを表された時もありました。一方で薬の副作用が強くなって、せっかくの薬を使えなくなり、悲しい表情を浮かべられることもありました。どうしようもない状況もありますが、患者さんの人生に寄り添い続ける中で、医療の進歩とともに新しい薬を使えるようになり、その結果、患者さんの症状が少しでも改善し、笑顔が戻った瞬間には、私も本当に嬉しく感じます。

通所コーディネーターって どんな仕事??

富田浜病院グループには3つの通所サービス(病院通所リハビリテーション、老健通所リハビリテーション、通所介護)があります。通所コーディネーターは本人や家族、ケアマネジャーからの相談や問い合わせをワンストップでお受けし、ご希望に適したサービスを紹介いたします。窓口が一本化しているため、あちこちに相談や問い合わせをする必要がなくお手間をとらせません。

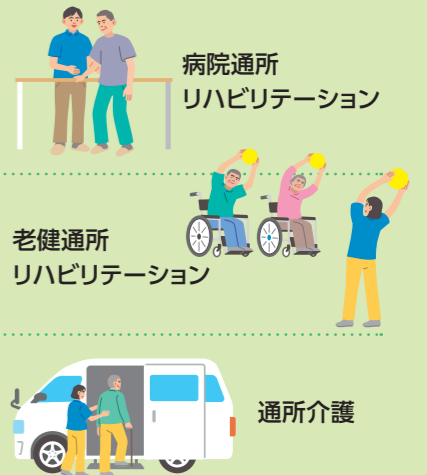
1 本人・家族からの通所利用の相談



2 ケアマネジャーからの相談や空き状況の確認



3 3つの通所サービスの責任者との調整



通所
コーディネーター

役割1 本人・家族から利用の相談

対応例

- 初めての利用、どういう手続きをしたら良い?
- お母さんの症状や性格に合う事業所はありますか?
- 作業的な事ができますか?
- 通所の利用時間やサービス内容を教えてください
- 見学やお試し体験利用について

役割2 ケアマネジャーからの相談や空き状況の確認

対応例

- 退院、退所後に初めて通所利用を調整したい
- 利用の空き状況を即時知りたい
- 各事業所のサービス内容や特徴を教えてください
- 見学やお試し利用のご相談
- 他の通所事業所は合わなかった

役割3 3つの通所サービスの責任者との調整

対応例

- 本人、家族の思いやケアマネジャーからの依頼内容の共有
- 空き状況の確認
- 送迎ルートの確認
- 利用時間の相談
- 見学・お試しの依頼
- サービス内容やイベントの確認



通所コーディネーター
栗田 扶佳

通所事業所で介護士をしていました。ケアマネジャーや他事業所と協力し、利用者さんが安心して利用できる場の提供を行って来ました。これからは介護士ではなく、3つの通所事業所の最初の窓口を担当しますので、役割の大きさを感じています。私は病院理念の「地域の人々に信頼され安心できる病院」をととても大切にしています。地域の人々が自分らしい生活を維持していただけるよう、3つの事業所の特徴を深く知っていただき、ぜひご利用いただきたいと思えます。「こんなこと聞いても良いのかな?」という疑問でも、お気軽にお問い合わせください!

問い合わせ

059-365-0066 (担当:栗田)
もしくは富田浜介護総合受付にお越しください。